

# 是ヨリ北紀州

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

二条城に面した堀川の川底に降り立つと、東側には丁寧<sup>おとしづみ</sup>に加工した石材を落積<sup>おとしづみ</sup>にした現代の石垣が延びており、西側には切り出した石材をさほど加工せずに積み上げた穴太積<sup>あなのうづみ</sup>の石垣が、相對しているのを見ることができる。これは二条城に面した範囲に限られていて、それより北は両面とも現代の石垣が続き、南は暗渠になっている。

この、二条城に面した西側の石垣には、1行の銘文と21箇の刻印が彫られている。これらが見つかる範囲は夷川橋の北から二条橋の南まで、およそ230mの間である。

刻印のほとんどは、割っただけの調整されていない石の面にそのまま彫り込まれている。たとえ石垣の面に刻まれていても見過ごして通り過ぎるほどのものが多く、なかには、石の隙間から覗き込んでやっと見つけられるものもある。

これらの刻印が刻まれるのは、組織的に分担して築城する際に、受持分の石材が集石場や輸送の途中で分散したり紛失しないように記入した、今風に言えば製品タグと考えられている。

ところで写真の銘文であるが、ちょうど二条城を南北に2分するあたりの、幅が153cm・高さが68cmほどある石材の南端に刻まれている。石はほぼ水平で、文が上から下へ垂直になるように据えら

れている。文字は1cmほどの深さに彫りくぼめた矩形の中に刻まれていて「是ヨリ北紀州」と読める。書を良くする人の手跡を見るように形もほどよく整っている。

「是ヨリ北」とは、この石の据えられた場所を起点とする北方を意味するのであろうが、「紀州」は何を示しているのであろうか。



「紀伊国」と解すると、この石は、和歌山の南端からはるばると運ばれた道標であるという、とんでもない解釈を作り出す羽目に落ち入ることになる。まさか、紀伊国から道標を移してきたとは考えにくいのである。

国でないとなれば、大名家を藩名で呼ぶ場合の旧国名が思われる。



が銘文のある箇所

紀州藩あるいは紀州家の「紀州」である。

とすれば、銘文は「此の場所以北は紀州家である」という表示になる。もっとも、これは石垣の所有を表すのではなく、工事の分担区域である「丁場<sup>ちやうば</sup>」を示すもので、「これ以北は紀州家が担当する丁場である」という丁場の境界を示す銘文と解することができる。多くの場合、丁場を示す印は記号あるいは紋章が用いられるが、それだけではないことは、大坂城に残る「筑後守わき角」という筑後柳川藩主田中筑後守の丁場を示す銘文からも理解できよう。

豊臣・徳川の両時代を通じて紀州家は2家しかない。浅野幸長・<sup>ながあきら</sup>長晟兄弟が藩主となった時期の紀州浅野家と、徳川家康の第十子頼宣を藩祖とする紀州徳川家である。

浅野家は、関ヶ原の戦いで東軍にくみした功績によって、慶長五年に浅野幸長が紀伊国を与えられ、紀州浅野家となる。その後、福島正則の改易にともなって、元和五年(1619)七月に安芸国・備前半国に封ぜられて広島に移り、芸州

浅野家となっている。浅野家の後に紀伊国を領するのが徳川頼宣で、以降江戸時代を通じて、紀州徳川家が続くことになる。

この両家のうち、どちらかが銘文の「紀州」なのである。

二条城の築造は、関ヶ原の戦いの翌年、慶長六年（1601）に始められている。慶長八年にはほぼ完成し、三月に徳川家康が入城して征夷大将軍拝賀の礼が行なわれた。この時の二条城は長方形の地割で、天守は北方に設けられている。現在のように本丸と天守が西側に突き出た凸形の地割になるのは、寛永元年から三年（1624～26）にかけての三代将軍家光の改築工事によってである。

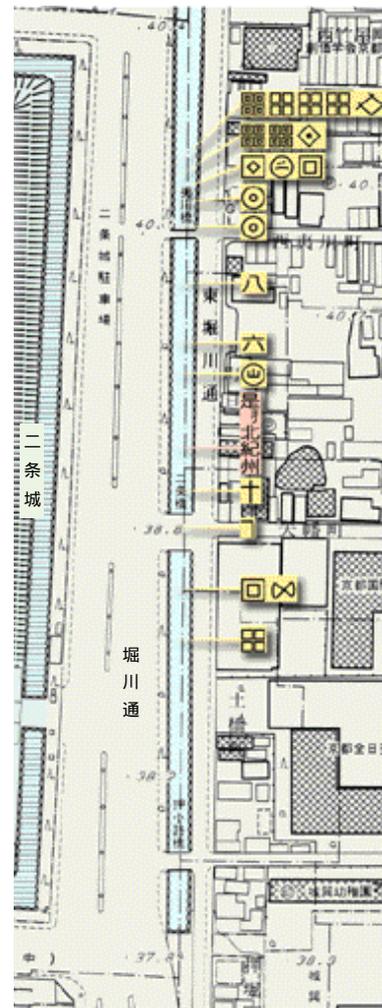
この、慶長八年に完成した長方形の二条城の景観を描いた、京都国立博物館本や富山・勝興寺本などの洛中洛外図には、堀川西岸の石垣がすでに描かれている。正確な記述はないものの、堀川の石垣は慶長の二条城造営時に同時に築

かれたものと推測され、銘文の「紀州」は、紀州浅野家を指すものと考えてもよさそうである。

寛永の改築に際して紀州徳川家が担当した丁場には、「き」の刻印を用いていることから、徳川家でないと思われる。

資材の調達から普請工事までを諸大名に分担させて造営する、いわゆる「天下普請」は、天下を治めた豊臣秀吉の大坂城の築城から始まり、聚楽第・伏見城と続くのである。これらの秀吉の城郭では、資材調達のための刻印や墨書が多く石材に残されている。

しかし、丁場割りを示す刻印は見つかっておらず、慶長の二条城石垣にも認められない。丁場割りの刻印が見られるのは、寛永の二条城拡張部分や、元和六年から寛永六年（1620～1629）に再建された徳川家の大坂城などであり、この堀川の石垣に刻まれた紀州浅野家のものが、最も早いものといえるのではなかろうか。（原山 充志）



刻印の種類と位置

#### ご案内

今回紹介した石垣のある場所へは、中立売通に架かる堀川一番橋 北西隅の石段を降りて南へ徒歩約15分です。

